

平成20年6月
ネットワーク全労生

2008年度 全労生の取り組み

全労生 事務局長
西澤昇治郎

全労生は、去る6月3日に2008年度第1回中央委員会を開催し、今年度の活動計画を決定した。

年間活動統一テーマは、運動の継続性と2008年度の位置づけを踏まえ、前年と同じ「生産性3原則の再認識と課題への挑戦」に、具体的取り組み課題として、「ワーク・ライフ・バランスの実現へ働き方の改革と新たなワークルールの確立」「労組生産性運動50年の歴史と意義を共有し新たな運動の展開」を加え、～真にゆとりと豊かさのある公正で安全な社会をめざして～とした。

また、全労生は2009年4月に50周年を迎える。この節目を踏まえ、2005・06年度アピールの具現化をはじめとする6点の重点項目を定め、構成する産業別労働組合はもとより各地方労組生産性会議・生産性機関および社会経済生産性本部との連携を一層強化し、メリハリのある諸活動を展開することとを「活動における基本認識」とした。更に、50周年記念事業については、検討委員会の答申に基づく4事業（シンポジウムの開催、50周年宣言、記念誌の発行、海外調査）を、実行委員会を構成し実行計画を立案・実践することとした。

一方、全労生の具体的な活動の場は、幹事会と5専門部会（企画・財政、労働政策、調査、組織・広報、中小企業対策）および特別委員会（サービス分野の生産性向上と労働組合の役割）、更には定例研究会、ユニオンカレッジ、中央討論集会などである。これらの場における調査・研究をはじめとする諸活動の更なる充実とともに、企業別・産業別労使協議など労使関係の現場で、生産性3原則の再認識と深化など生産性運動を希薄化させない取り組みの着実な前進を図らなければならない。そのためにも、労組生産性会議の活性化と組織の整備・拡大は必須の要件である。

構成組織をはじめ関係する多くの皆様のご理解と積極的なご参加を宜しく願いいたします。